

19. カリフラワー

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) Zボルドー	散布	-	-	野菜類 (キャベツを除く)
	ドイツボルドーA	散布	-	-	野菜類
7	アフエットフロアブル	散布	収穫前日まで	3回以内	はなやさい類
7+11	シグナムWDG	散布	収穫7日前まで	2回以内	はなやさい類
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	はなやさい類
36	ネビジン粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	
29	フロンサイド粉剤	全面土壌混和	は種又は定植前	1回	

・殺菌剤(参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	(銅水和剤) コサイド3000	散布	-	-	野菜類

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
6	アフーム乳剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
-	コナガコンープラス (ロープ状製剤)	支柱を立てロープ状の製剤を対象作物の上部に張り渡す。	対象作物の栽培全期間	-	コナガ、オオタバコガが加害する農作物等
-	コナガコンープラス (ツイントチューブ製剤)	作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て支持棒にツイントチューブを巻き付け固定し圃場に配置する。	対象作物の栽培全期間	-	コナガ、オオタバコガ、ヨウモリガが加害する農作物等
-	コンフューザーV	作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て支持棒にツイントチューブを巻き付け固定し圃場に配置する。	対象作物の栽培全期間	-	野菜類
11	ゼンターリ顆粒水和剤	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類 (はくさいキャベツを除く)
1	ダイアジノン水和剤34	散布	収穫30日前まで	2回以内	
1	ダイアジノン粒剤3	土壌混和	収穫30日前まで	2回以内	
11	トアロー水和剤CT	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類 (ハセリ、えごま(葉)を除く)
5	ディアナSC	散布	収穫前日まで	2回以内	
11	バシレックス水和剤	散布	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	野菜類
30	プロフレアSC	散布	収穫前日まで	3回以内	はなやさい類

・殺虫剤(参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオオン乳剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	
5	スピノエース顆粒水和剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	
1	ダイアジノン乳剤40	散布	収穫30日前まで	2回以内	
1	マラソン乳剤	散布	収穫3日前まで	5回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。
- 注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
根こぶ病 (F)	は種期及び 定植期	1. 被害根は集めて、ほ場外に埋却する。 2. 土壌酸度をpH7以上になるように、石灰を施用する。 3. は種又は定植前に10a当りネビジン粉剤20~30kg、フロンスайд粉剤30~40kgのいずれかを全面に均一散布し、土壌とよく混和する。	1. 排水の悪いほ場で発生しやすい。 2. フロンスайд、ネビジンは、面積に応じた薬剤量を厳守する。
黒すす病 (F)	生育期間	1. シグナムWDGの1,500倍液、アフェットフロアブル2,000倍液、ファンタジスタ顆粒水和剤3,000倍液のいずれかを散布する。	1. 花蕾に発生すると商品価値を著しく損なうので、出蕾前から予防散布する。 2. QoI剤に関する注意事項「56.野菜類の総括注意」参照。
黒腐病 (B)	生育期間	1. Zボルドー500倍液を散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000の2,000倍液を散布する。	1. 多発ほ場では2~3年、アブラナ科野菜を連作しない。 2. 過湿、過乾、高温栽培、肥切れの場合に発生しやすい。 3. 発病前から予防散布する。
軟腐病 (B)	生育期間	1. Zボルドー、又はドイツボルドーAの500倍液を散布する。 [参考農薬] 1. コサイド3000の2,000倍液を散布する。	4. 無機銅剤は高温条件下、連続散布で薬害が発生する恐れがあるので特に注意する。炭酸カルシウム水和剤(クレフノン)100~200倍液を加用すると薬害を軽減することができる。
コナガ タマナギンウワバ ヨトウガ アオムシ	育苗期から 収穫まで	1. 別表により、いずれかの薬剤を散布する。	1. 加害の初期に防除する。
コナガ	生育期間	1. コナガコン-プラス(ローブ状製剤)を10aに20m、支柱を用いてカリフラワーの上に設置する。 2. コナガコン-プラス(ツインチューブ製剤)を長さ50~60cm程度の棒の端に2本留めたものを1セットとし、10a当り50セットを4m×5m間隔格子状にほ場内へ均等に配置する。 [参考農薬] 1. スピノエース顆粒水和剤の5,000倍液を散布する。	1. コナガの発生初期から、3ha以上の面積で共同使用する。 2. コナガ以外の害虫では、コナガコン-プラスはオオタバコガと、ヨトウガ(ツインチューブ製剤のみ)に登録がある。対象外害虫の発生が認められたら殺虫剤で防除する。 3. コナガの密度が高まったら、殺虫剤を散布する。 4. スピノエースは蚕毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
コナガ オオタバコガ タマナギンウワバ	生育期間	1. コンフューザーVを長さ50~60cm程度の棒の端に4本留めたものを1セットとし、10a当り25セットを6m×7m間隔格子状にほ場内へ均等に配置する。	1. コナガ対象の場合、発生初期(概ね4月下旬頃)に設置する。 2. オオタバコガ対象の場合、第1世代成虫発生初期(概ね7月上旬~中旬頃)に設置する。 3. タマナギンウワバ対象の場合、越冬世代成虫発生期(概ね4月下旬頃)に設置する。 4. 3ha以上の面積で共同利用する。 (続く)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
コナガ オオタバコガ タマナギンウワバ	生育期間		5. 本剤はオオタバコガ、タマナギンウワバ、イラクサギンウワバ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、コナガに交信攪乱効果がある。対象外の害虫の発生が認められたら殺虫剤で防除する。 6. 多発時は殺虫剤を散布する。
ネキリムシ (カブラヤガ)	定植前	1. ダイアジノン粒剤3を10aに6～9kg植付前に散布し土壌混和する。	
アブラムシ類	生育期間	1. ダイアジノン水和剤34の2,000倍液を散布する。 [参考農薬] 1. ダイアジノン乳剤40の1000倍液、アディオン乳剤、マラソン乳剤の2,000～3,000倍液のいずれかを散布する。	1. アディオンは蚕毒及び魚毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

【別表】 殺虫剤の使用方法及び効果（表中の登録内容は令和6年11月30日現在）

薬剤の系統	IRACコード	薬剤名	希釈倍数、施薬量	コナガ	タマナギンウワバ	ヨトウガ ¹⁾	アオムシ	アブラムシ類
合成ピレスロイド剤	3	アディオン乳剤	2,000倍	△				○
B T 剤	11	ゼンターリ顆粒水和剤	2,000	○*		○	○	
		トアロー水和剤CT	1,000	○*		○	○	
		バシレックス水和剤	1,000	○*	○		○	
スピノシン剤	5	スピノエース顆粒水和剤	5,000	○				
		ディアナSC	2,500	○*		○	○	
有機リン剤	1	ダイアジノン乳剤40	1,000	△			○	○
		ダイアジノン水和剤34	2,000	△				○*
		マラソン乳剤	2,000～3,000					○
メタジアミド系	30	プロフレアSC	2,000	○*	○ ²⁾	○	○*	
ミルベマイシン系	6	アフファーム乳剤	2,000	○*			○*	

【効果凡例】 ○*：効果ある（対象害虫に普及済み） ○：効果ある（対象害虫に未普及） △：効果劣る

1)：ヨトウガは、農薬適用害虫名のヨトウガ、ヨトウムシを含む。

2)：登録はウワバ類。

【注】1. アディオンは蚕毒及び魚毒に、アフファーム、プロフレア、バシレックス、ゼンターリ、ディアナは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

2. トアローは蚕毒に、プロフレアは水産動物（甲殻類）に注意する。

3. 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。